

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	59	事業名	消防団運営事業	担当部課	消防本部 総務課
------	----	-----	---------	------	----------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	1	災害に強いまちをつくる	款	8	消防費
		施策の進め方	2	地域消防防災力の強化	項	1	消防費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で	目	2	非常備消防費
		政策分類	6	地域の安心安全をみんなでつくる	大事業	2	消防団運営事務
	その他(関係法令、要綱等)		長久手市消防団条例、長久手市消防団規則				
事業開始の背景、経緯等		昭和40年に消防団の組織が確立し、消防団運営事業を開始した。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 消防団の運営全般に係る事業					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 消防団員を含む全ての市民及び在勤者並びに消防車両、装備等消防団行政に係わるすべて					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民啓発により団への理解を深め、団員の増員を図り、消防車両や装備等を整備することにより消防団体制を整える。					
	事業を構成する事務事業	① 消防団事務事業	② 消防団活性化事業	③ 自動車管理事業	④ 消防団手当	⑤	⑥

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	決算	予算			2,345	37,450
決算						1,747	31,910	
人件費(B)	千円	決算			4,200	10,464		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			5,947	42,374		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 訓練・研修回数	回	目標	-	-	-	60	60
			実績	81	83	85	82	
	B 新規入団員数	人	目標	-	-	10	10	10
実績			15	9	16	6		
C 事故・故障回数	回	目標	-	-	0	0	0	
		実績	0	0	0	0		

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 訓練・研修回数により、消防団員の知識・技術の取得状態が判断できる。

B 新規入団員数により、市民の団への理解の深まりや団の活発化の進捗が判断できる。

C 事故・故障回数により、消防団車両の管理状態が判断できる。

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においても同様な取組を行っている。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 消防団活性化事業は、昨年度様々な試みを行ったが目標を達成できていない。他の事業はおおむね達成できている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 活性化事業については地道な活動を行うことが必要であるが、制度を変更する等、これまでとは異なった視点で事業を行う必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 活性化事業はこれまで行ってきた事業を継続しながら別の切り口から事業を行う。他の事業はこれまでどおり継続する。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成30年4月までに団員150人

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		消防団運営事業										
番号	①	事務事業名	消防団事務事業		款	8	項	1	目	2	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和55年		終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	・ 消防団員を対象に操法大会及び防災訓練等の行事参加、救命講習等の研修を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	団員に訓練や研修を行うことで必要な知識・技術の向上を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算				5,931	6,149
		決算				5,805	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
訓練・研修回数	回	目標	-	-	-	60	60
		実績	81	83	85	82	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

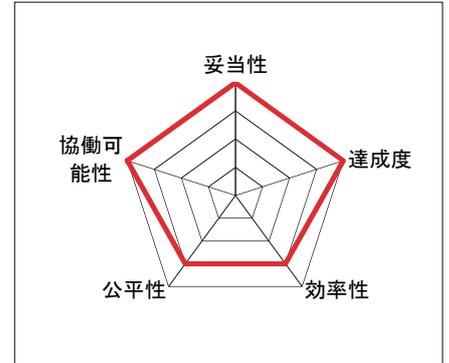
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
全国的に消防団員の減少並びに団員の被用者化及び高齢化に伴い、訓練、研修等の参加率が低くなっている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
・ 今年度新規対象
(何をどのような状態に改善したのか)
-

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	4



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
・ 平成28年度愛知県操法大会小型ポンプの部で準優勝した。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
・ 訓練等を行っているが、団員のレベルに差があるので基本訓練から行う必要がある。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
・ 団全体のレベルを上げるため、定期訓練においては、基本訓練から実施する。
・ 愛知県消防学校の研修（警防機関科2人、初級幹部科2人、分団指揮課程2人、現場指揮課程2人）に参加する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

					事業名	消防団運営事業								
番号	②	事務事業名	消防団活性化事業		款	8	項	1	目	2	大事業	2	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和55年		終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民等を対象に市の行事において入団促進の事業を行っている。 ・消防団及び団員を対象に災害時に必要な資機材及び安全装備品を購入している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	入団を促進し、団員を増員する。必要な資機材及び安全装備品の充実強化を図り、地域防災力強化を図る。併せて消防団を活性化する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			626	7,063	4,421
		決算			546	5,912	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
新入団員	人	目標	—	—	10	10	10
		実績	15	9	16	6	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

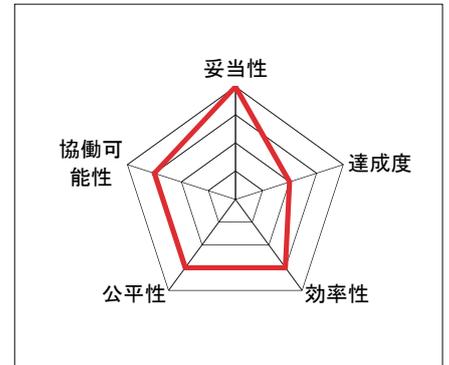
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
全国的に消防団員の減少並びに団員の被用者化及び高齢化に伴い、訓練、研修等の参加率の低くなっている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
<ul style="list-style-type: none"> ・当初入団と途中入団を併せ、当初目標を達成している。しかし、年度末退団者数が新入団者数を上回る状態となった。 ・地域等の消防団への理解度は上がっているが、積極的な入団とは至らない。今後も創意工夫を交え事業を継続していく。 ・3分団に対して現在配備済みである資機材数を再調査し、必要配備数を調査、3分団に均等に資機材等の配備を進める。
(何をどのような状態に改善したのか)
消防団員の獲得をシステム化し、長期的に安定して団員を獲得できる状態にしたい。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	2
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅での啓発ティッシュの配布 ・大学の合同学園祭においての入団促進活動 ・団員募集オリジナルポスターの作成

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
・事務局の取組だけではなく、地域住民や地域自治組織の協力が必要があったが、それらの協力を得ることができなかったこと。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な先進事例を把握し、本市の特徴等を踏まえた新たな入団促進策を検討しながら、今後も継続していく。 ・資機材は、高額なものが多いため、整備計画を踏まえて購入できるよう継続していく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		消防団運営事業										
番号	③	事務事業名	自動車管理事業		款	8	項	1	目	2	大事業	2	中事業	3
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和55年		終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・消防団車両9台を対象に車検及び6ヶ月点検、12ヶ月点検を実施している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 災害出動に即応するため、消防用車両を常時出動可能な状態にする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算				1,445	1,807
		決算				991	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事故・故障回数	回	目標	-	-	0	0	0
		実績	0	0	0	0	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

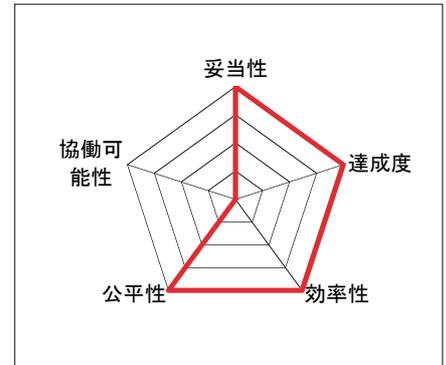
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においても同様な取組を行っている。
--

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> ・今年度新規対象 (何をどのような状態に改善したのか) -

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	4
効率性	4
公平性	4
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) ・平成27年度以降、消防団車両を無事故・無故障とすることができ、いつでも出動可能な状態に保つことができた。
--

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) ・他市では車検切れ車両の報告があるため、管理する車両の点検・車検の年間予定表を作成し、適切に管理を行っている。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

					事業名	消防団運営事業								
番号	④	事務事業名	消防団手当			款	8	項	1	目	2	2	2	4
事務事業の期間		事務事業開始年度			昭和55年			終了（予定）年度		-				

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・ 消防団員122人を対象に長久手市消防団条例に基づき報酬及び費用弁償を支給する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 条例に基づいた適正な支払いを今後も保つこと。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算				23,011	23,259
		決算				19,202	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		目標					
		実績					
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

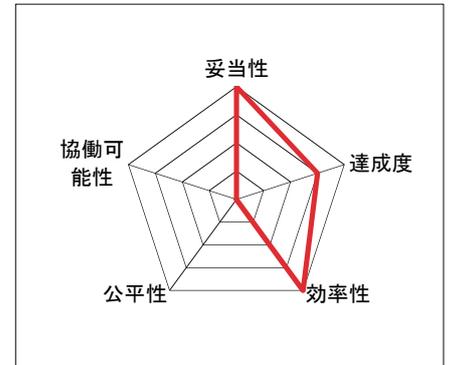
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においても同様な取組を行っている。
--

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> ・ 今年度新規対象
(何をどのような状態に改善したのか) -

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	4
公平性	-
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) ・ 報酬及び費用弁償の調査を行い、必要に応じて金額の改正を行う。
--